

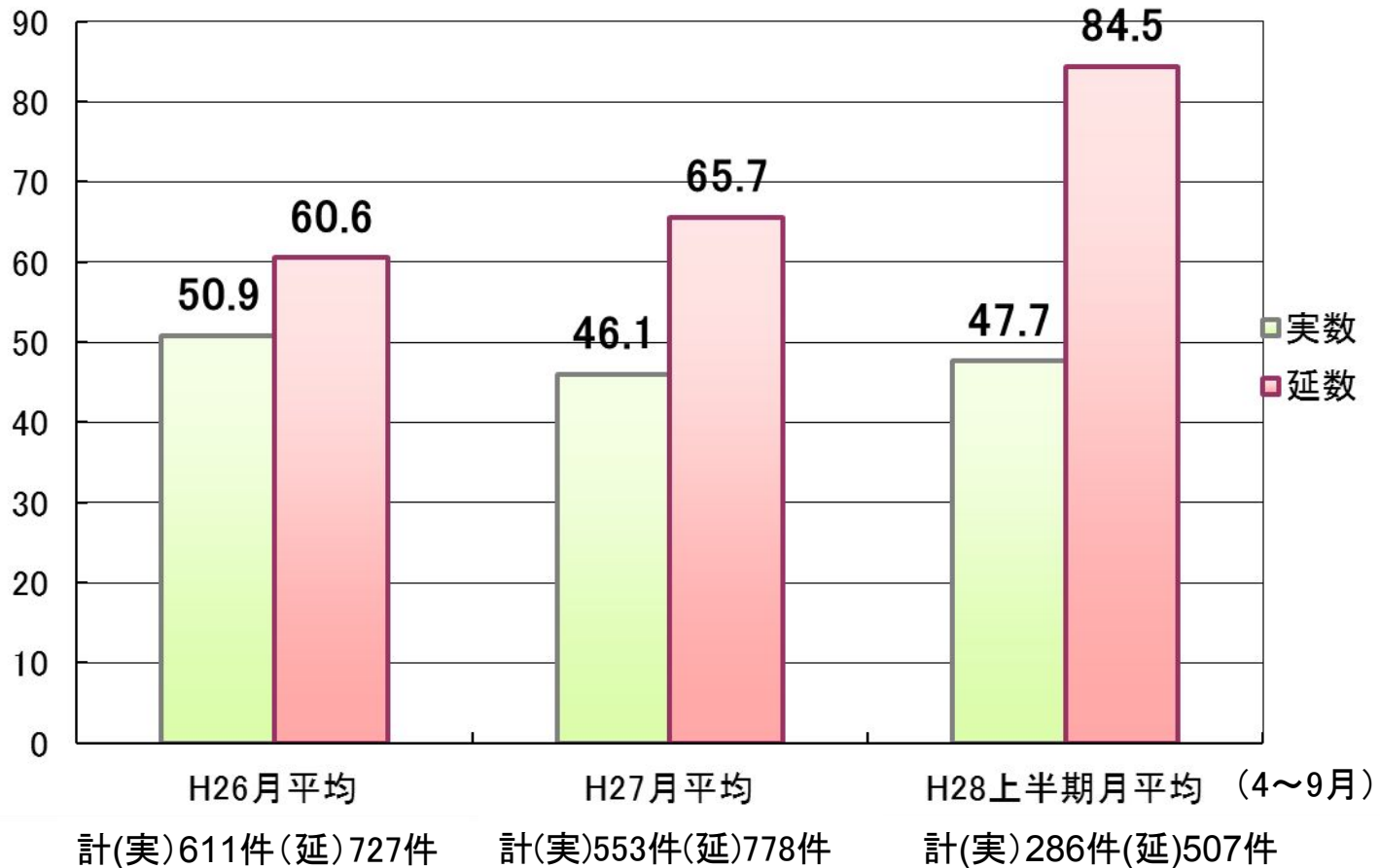
柏地域医療連携センター 相談状況

平成28年4月～9月分

～報告～

平成28年10月27日

1 月別相談件数

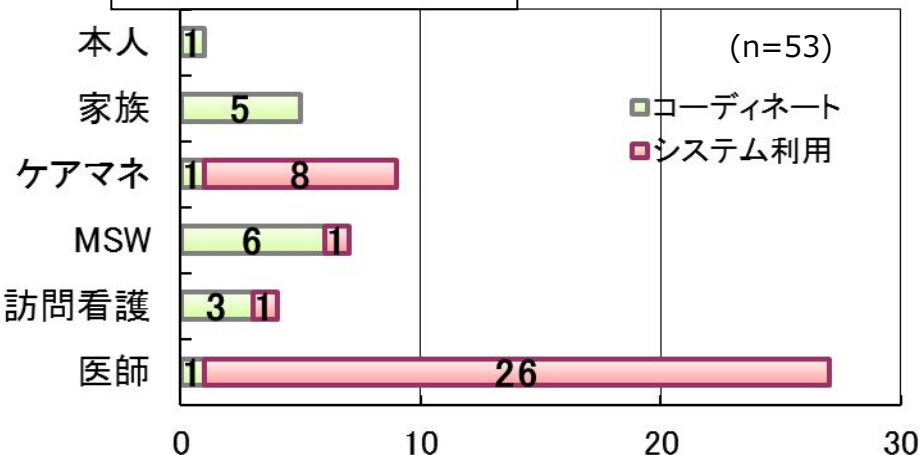


- 26・27年度とH28年上半期の相談件数を比較すると、月平均の実数は同等、延数は上回る状況だった。
- 相談対象者や疾病の割合に変化はなかった。主な相談内容では、在宅医療に関する相談32%、受診・受療に関する相談が25%であった。
- 相談結果は、終了 233名 (82%)、在宅医療コーディネーター 15名(5.2%)、情報共有システム利用 38名(13%) であり、情報共有システム利用の依頼が多かった

2 継続相談の内訳

H28年4月～9月 相談実数：286名 内継続：53名
 (継続内訳：コーディネート依頼15名，システム利用依頼38名)

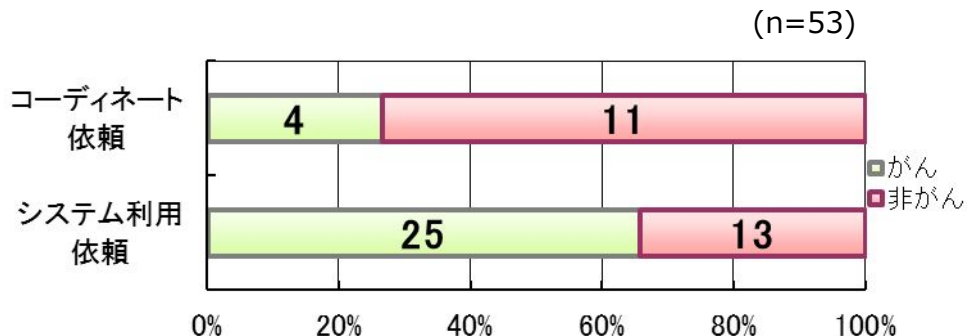
①相談者の内訳



コーディネート依頼では，MSWや家族から，システム利用の依頼では，在宅医師やCMからが多かった

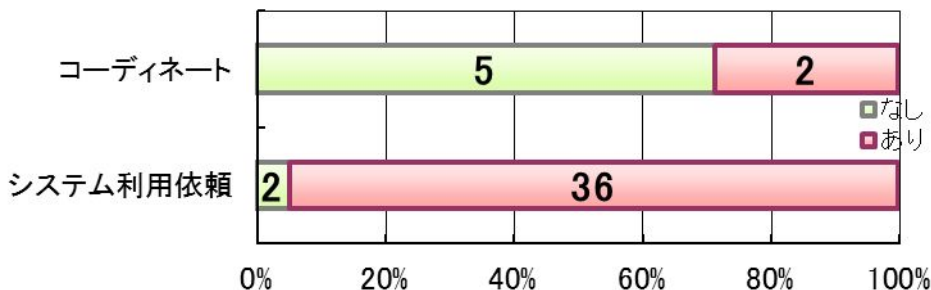
②対象者の主疾患

(非がん内訳) 認知症，髄膜炎後遺症，ALS，心房細動，脳梗塞，誤嚥性肺炎，骨折・DM，喘息，自閉症・骨折



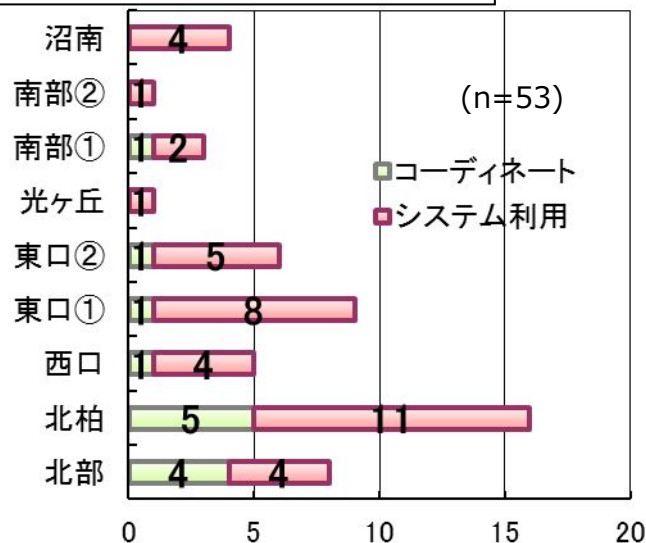
コーディネート依頼では，非がんが多く，システム利用の依頼では，がんが多かった

③情報共有システムの利用状況



- ・コーディネートの依頼15名の内7名は，主治医等の調整を行い，内，2名がシステム利用となった
- ・システム利用の依頼38名の内36名がシステムを利用となった。2名は，依頼日翌日の死亡，家族からの拒否により利用に至らなかった

④対象者の居住エリア



3 まとめ

- H27年度の相談延数は、月平均65.7名であったが、H28年4～9月の月平均は、84.5名と増えた。
- 継続相談の内訳では、在宅医療コーディネートの依頼は、MSWや家族から、情報共有システムの依頼は、在宅医師やCMからが多かった。
- 在宅医療コーディネートの依頼15名の内7名は、主治医や訪問看護の調整を行い、他8名は、コーディネートに至らなかった。
- コーディネートに至らなかったケースの内訳は、通院可能3名、入院1名、医療機関等の情報提供3名、家族が直接依頼1名であった。
- コーディネートを行い、在宅診療が開始したケースで、退院翌日に再入院となったケースが複数みられた。
- 病院からの相談ケースでは、退院直前のものが多く、切れ目なく支援を行うために、退院日当日に在宅医療が開始できるような調整が間に合わないケースもみられた。
- 本人・家族の意向を踏まえながらも、病状や介護力等の条件や環境より十分なアセスメントや多職種間での情報共有等が必要だと考える。

柏市・意見の違いを楽しむ多職種事例検討会

主旨:平成27年度の「患者や家族の『選択と心構え』を支えるための勉強会」の内容を発展させ、実際の事例を多職種により検討する。

対象:柏市において医療・介護に携わる専門職の方など

日時:(第1回)平成28年10月31日(月)

(第2回)平成28年11月28日(月)

(第3回)平成28年12月26日(月)

(第4回)平成29年 1月23日(月)

(第5回)平成29年 2月27日(月)

午後7時から
午後9時まで

場所:柏地域医療連携センター研修室

主催:柏市地域医療推進室

(開催支援)東京大学医学部在宅医療学拠点